

大量化学療法を受ける血液腫瘍患者への食事提供制限緩和における

多職種協働による取り組みの安全性評価

情報公開書

研究の概要：

強い免疫力の低下を招く抗がん剤治療を受ける血液がん患者さんには、通常の食事（以下、常食）を食べると感染の危険が増える可能性があるという理由で、無菌食や加熱食の提供などの食事制限を行います。一方で近年、生の果物や野菜を食べても感染率は変わらないという過去の研究結果をもとに食事制限を緩和することが考慮されてきています。

当院でも 2013 年 6 月より、常食の提供を継続する等の制限緩和を開始しましたが、医師、看護師、栄養士、薬剤師等の多職種での共通認識が乏しく、統一した患者さんへの対応ができなかったり、日本特有の食物や患者さんが持ち込んだ食べ物についての対応に混乱が生じました。また、患者さんからは「制限が緩和されて嬉しい」などの声が上がった一方で、「本当に安全か？」などの不安の声もありました。

そこで、これらの問題を解決するために、医師、看護師、栄養士、薬剤師の多職種で、食事提供の制限を緩和をしながらも一定の安全を保証した「C 対応」という食事提供形態を、関連ガイドラインや国内外の過去の研究の結果を参考にして創出し、2014 年 8 月よりその運用を開始しています。

しかし、「C 対応」については、食事制限を緩和する以前に提供していた全ての食材を加熱調理した食事（以下、「準無菌食」）と比較して安全かどうか確認できていません。

そこで、本研究では、「C 対応」で食事した患者さんにおける感染などの副作用の発現の割合を、「準無菌食」で食事した患者さんと比較・検討することで、「C 対応」の安全性を確認することを目的としています。

研究対象：

2014年8月～2014年12月までに国立がん研究センター東病院血液腫瘍科において寛解導入化学療法や自家造血幹細胞移植併用化学療法を受け、「C 対応」で食事した患者さんと、2012年4月～2013年7月までに国立がん研究センター東病院血液腫瘍科において寛解導入化学療法や自家造血幹細胞移植併用化学療法を受け、「準無菌食」で食事した患者さんの診療録が対象です。

方法：

2014年8月～2014年12月までに国立がん研究センター東病院血液腫瘍科において寛解導入化学療法や自家造血幹細胞移植併用化学療法を受け、「C 対応」で食事した患者さんと、2012年4月～2013年7月までに国立がん研究センター東病院血液腫瘍科において寛解導入化学療法や自家造血幹細胞移植併用化学療法を受け、「準無菌食」で食事した患者さんの診療録より、感染などの副作用症状に関して必要な情報を収集します。情報収集の作業に当たる人員は看護師・薬剤師・医師・栄養士で、医療知識のある研究者です。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用で別途割りつけられた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出て下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 8階病棟 看護師 千葉 育子

TEL 04-7133-1111 (内線：3800)